

穂学



令和3年度

広州日本人学校 学校便り

[No.14]

令和3年12月24日(金)

発行責任者 校長 加藤康徳

「丑年から寅年へ」

今年も残すところ1週間となりました。この12月は受験などの関係で日本に帰国する児童生徒が増えるようです。2学期の最終日にこの学校を離れる児童生徒も終業式の中で紹介されました。慣れ親しんだ学舎を去り、新しい環境に旅立つにあたって、様々な思いが子どもたちの頭の中をよぎるかもしれませんが、日本に帰国してもこの広州日本人学校で学んだことを糧にそれぞれの目標に向かってぜひ頑張ってもらいたいです。私たち教職員は遠く離れていても広州の地から子どもたちを応援しています。

さて、2021年から2022年、令和3年から令和4年、丑年から寅年と名称は様々ですが、また新たな年に向かって暦が移ります。中国においては旧正月にお祝いをするので、この時期の街の装いからは年の変わり目を感じることは日本に比べるとあまり無いのかもしれませんが。

ただ、日本人学校としては中国において現地校よりも少しだけ早く新たに気持ちをリセットできる状況を生かし、来年も子どもたちの為に教育活動を推進していこうと思っております。

今年一年、保護者、及び日本人社会関係者の皆様の本校教育活動へのご理解とご協力に感謝いたします。来年もよろしくお願いいたします。

歴史 TORIVIA

日本で現在使用されている太陽暦（それまでは太陰太陽暦）は明治政府によって採用され、明治5年12月3日となるべき日を明治6年1月1日に変更することでスタートしました。改暦が政府から発表されたのは、施行のわずか23日前だったので、人々は大変困惑したようです。ただ、当時の日本は西洋を手本に国づくりをしていたので、西洋からもたらされた太陽暦はすぐに日本人の中に浸透していったのではないのでしょうか。その結果、今では旧正月をお祝いする習慣は日本ではあまり身近に感じる事がなくなったようです。なお、現在は中国はもちろんのこと、韓国 ベトナム モンゴル ブルネイでも旧正月を祝日としているそうです。

「個人懇談会、後期学校アンケートのご協力に感謝いたします。」

12月20日より実施させていただいた個人懇談会が昨日無事に終了いたしました。また、懇談会開始日は後期学校アンケートの回収締切日でもありました。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。※アンケート結果については後日「穂学」に掲載いたします。

「つながりを未来に実感させる活動の紹介 2学期編」

広州日本人学校は2学期も学校経営スローガン「つながりを未来に実感させる広州日本人学校の創造」を意識し、全教職員で5つのつながりを実践してきました。

＜学校経営のスローガン＞
「つながり」を「未来に実感」させる
広州日本人学校の創造

＜大切にしている5つのつながり＞

- ①先生とのつながり
- ②授業とのつながり
- ③友だちとのつながり
- ④保護者・日本人社会とのつながり
- ⑤中国とのつながり



※2学期も授業と子どものつながりを検証しました。

＜公開研究授業＞



＜JSG秋フェス教員の発表＞



＜スクールバスの見送り＞



＜子どもの権利条約の研修＞



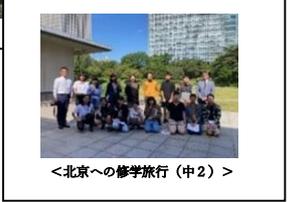
＜華南大学の学生との交流（中学部）＞



＜東風塘路小学校との交流（小学部）＞



＜白雲山登山（小4）＞



＜北京への修学旅行（中2）＞



＜キッズタイムの活動＞



＜姉妹国ボランティア＞



＜おもちゃ祭（1・2年）＞



＜運動会応援団＞



＜部活動（中学部）＞



＜トヨタ工場見学（小5）＞



＜ミシンボランティア（小5）＞



＜3年生を送る会（中学部）＞



「相手を気遣う気持ちを大切に自分の行動を振り返ろう」

＜人権を考える活動＞



＜保育実習（中3）＞



＜総領事館訪問（小4）＞